

Berlin Report

July 2018

CONTENTS

- * Project 1: The Future Breakfast
- * Project 2: Shared Living in Berlin

1. The Future Breakfast

Project Overview

18 世紀に、ボヘミアから移住してきた人たちが作ったリックスドルフ地区。300 年近く経ったいまも、中世からある鑄造工房や 19 世紀に作られた重厚な住宅建築が広々とした緑の多い通りや広場の周りに並び、大都市ベルリンにあるとは思えない、のんびりとした田舎のような趣のある一角だ。

ここ 1 年ほど、洗練された飲食店が次々とオープンしているこの地区で最も話題のニューアドレスが、「The Future Breakfast」。明るく居心地のよいインテリアと美味しい料理で人気を集めている。

店に足を踏み入れるお客をまず出迎えてくれるのは、ゆったりと弧を描く木製の大きなカウンター。キッチンに立つオーナー 2 人が、入店するお客に挨拶し、常に目を配れるように、カウンターは入り口に対して縦に配置している。以前あったドアや間仕切りは取り払って、4 つに分かれていた空間を 1 つに。客席空間の壁、床、天井などはオーナーが敬愛するコルビジエのカラーパレットをイメージした色合いで塗り分けた。その配色を取り入れた絵画作品がグラフィカルなインテリア作りに一役買っている。通りに面した大きな窓の前には、その窓を主役にするように丸く大きな食卓を置き、窓の向こうにある広場の借景と淡いペパーミントグリーンの壁、グリーンの鉢植えが響き合う。手作りのシンプルなインテリアでも、ちょっとした色や家具の形の工夫で、洗練された居心地の良さを演出できるという好例だ。

Project Details

1. Type of Business : Cafe
2. Open Date: 30/03/2018
3. Location: Boehmische Strasse 46, 12055 Berlin
4. Size: 80 m2
5. Interior Designer : Katie James, Florian Tränkner, Timo Schmitt

Location Map





店入口（写真左奥）を入ると真っ先に目に入るのが、この大きな木製のカウンター。床は淡いピンクグレー、壁はグリーングレー。

オーナーの出身地であるオーストラリアの日没をイメージしたという赤錆色で、2つの空間をつなぐ壁を塗っている。

食器は色を抑えて、白と透明のみ。冷たいドリンクや水を飲むグラスは、透明なグレーが印象的なフランスのアンティーク。

天井の高さや漆喰彫刻も、19世紀に建てられた古い住宅建築の特徴。



「お客を閉め出さないフォルム」をイメージして作ってもらったというカウンターは開かれた弧を描く。
ミニマルと言っていいほど装飾を取り払った空間なので冷たい印象を与えないように、カウンターを始め家具は角がない形に。
前のカフェが残っていたテーブル板をアップサイクルしたテーブルも角を落として丸みを持たせている。
コルビジェの住宅建築などにも現れる色が差し色に使われている。オーナー自ら塗り直しを重ねて完成した。

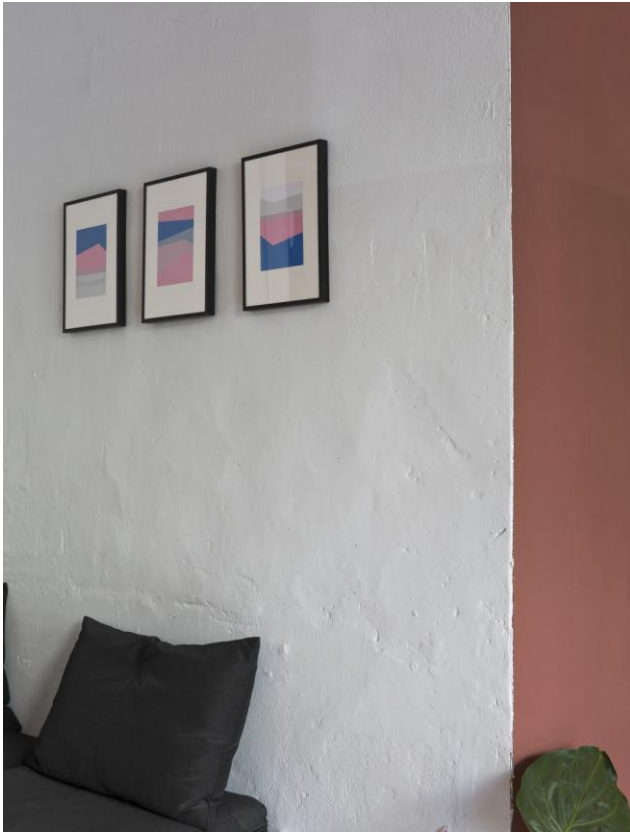


道に面した大きな窓。テーブルは、取り付け式の脚を買って、テーブル板は自分たちで制作した。

アルヴェ・アアルトも好きだというオーナーたち。スツールはアアルトのもの。



前もカフェだったという物件。前に使われていたテーブルは、板を再利用し、ベージュの脚を取り付けた。



店の前にある広場では卓球が盛ん。

卓球のラケットの貸し出しサービスをしつつ、ラケットをインテリアのアクセントに。



壁や天井の色と、差し込む光と陰が織りなす美しいグラフィック。

それをイメージした作品を友人のアーティスト、Jonathan Lawes に制作を依頼したもの

2. Shared Living Berlin

Project Overview

10年の間に家賃が7割以上の増加、ヨーロッパで最も家賃が上がり、不動産価格も高騰しているベルリン。

慢性的な住宅難のため、昨年だけでも13000戸以上の新しい住宅が作られたという。

そんな中で外国人が家を探すのは大変に難しく、価格も高くまた数ヶ月しか滞在しないようなIT企業の若手たちは、シェアルームとホテルを転々としなければいけないこともある。その問題を打破すべく作られたのが、この「シェア・リビング」だ。新しいルームシェアの在り方を提案するこの5階建てのアパートは、1フロアごとに10平米ほどの家具付きワンルームが10室ある。キッチンやリビング、ランドリーなどは共有スペースにある。

施工途中に、1階に他の住民たちとの交流の場になる広いリビングキッチンについてクライアントの要望があり、急遽1階のフロアを広くとることになった。

そのため天井を支える鉄骨、梁が必要となり、インテリアはその黒い鉄骨の梁を生かすように、マットな黒を基調に、明るい色の木材を至る所に配置。床はコンクリートで、あえて床材を貼った天井から数多く下げている裸電球のケーブルなども同色で揃えて生かし、ラフな雰囲気にした。不特定多数の人が場所を使うので、本棚や食器棚は、棚など木の棒を差し込んで支える形式で、棚の高さをフレキシブルに変えられるようにするなどの工夫もしてある。また、コンクリートの床は段差なく作られており、全てバリアフリーだ。

AIT Awards 2018 ベストインテリア賞、DAM Preises など、国内外のアワードを多数受賞している。

Project Details

1. Type of Business : shared living /apartment
2. Open Date: 01/04/2017
3. Location: Stromstrasse 36, 10551 Berlin
4. Size: 1118 m2
5. architect: SEHW Architektur

Location Map





リビングスペース。クッションはベルトで取り付けられており、取り外し自由。



1枚板の食卓には思わず座りたくなる。



壁にかけられた大きな黒板が交流や住民同士のやり取りを助けてくれる。